DENON

CDプレーヤー

DCD-F102

取扱説明書

安全にお使いいただくために―必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

接続のしかた

操作のしかた

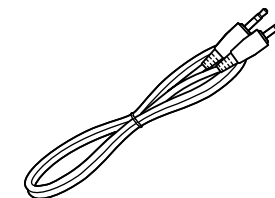
システム操作のしかた

その他について

ご使用になる前に

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

ピンプラグケーブル …1本 （ケーブルの長さ：約0.6m）	システムケーブル (ミニプラグケーブル)…1本 （ケーブルの長さ：約0.5m）

取扱説明書（本書） ……1冊
製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表 ……1枚
保証書【梱包箱に添付】

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告

■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告 つづき

■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注意

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

手を挟まれないように注意

指のケガに注意

特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

レーザー光源をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

⚠ 注意 つづき

■ 置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 使わないときは

長期間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

《ご使用になる前に》

■ お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

ステレオ音のエチケット

- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

《ご使用になる前に》

取り扱い上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音（ノイズ）が入る場合があります。携帯電話は、本機から離れたところでご使用ください。

移動させるときのご注意

まずディスクを取り出して電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルを外してからおこなってください。

お手入れのしかた

◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますのでご使用にならないでください。

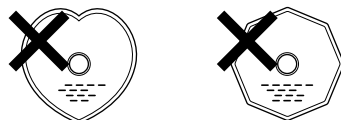
- 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ディスクについて

本機で使用できるディスク

❶ 音楽用CD

本機で使用できるディスクは、右のマークがついているものです。

但し、ハート型や八角形など、特殊形状のディスクは再生できません。故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

❷ CD-R/CD-RW

- ご使用になるディスクや記録状態により再生できない場合があります。
- ファイナライズされていないディスクは再生できません。

※ **ファイナライズとは？**
録音されたCD-R/CD-RWを再生対応機で再生できるように処理すること。

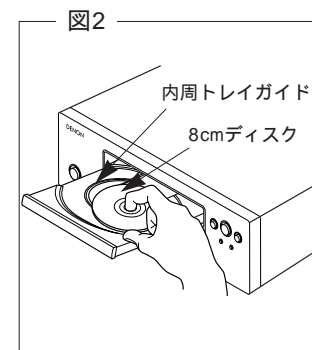
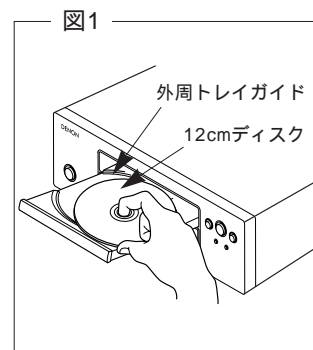
ディスクの持ちかた

ディスク情報面に触らないようにご注意ください。

ディスクの入れかた

- レーベル面を上にして入れてください。
- ディスクホルダーが完全に開いた状態でディスクを入れてください。
- 12cmディスクは外周トレイガイド（図1）に合わせ、8cmディスクは内周トレイガイド（図2）に合わせて、水平に載せてください。

図1

図2

- 8cmディスクは、アダプターを使用せずに内周トレイガイドに合わせて入れてください。

- 次の場合は、ディスプレイが“ 00 m 00 s ”表示になります。
  - ・ディスクが入っていない場合
  - ・ディスクが裏返しに入っている場合
  - ・ディスクの情報を正しく読めなかった場合

ディスクを入れる際のご注意

- ディスクは1枚だけ入れてください。2枚以上重ねて入れると故障の原因になり、ディスクを傷つけることにもなります。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクはご使用にならないでください。
- セロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がした痕があるディスクはご使用にならないでください。そのままご使用になると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因になることがあります。

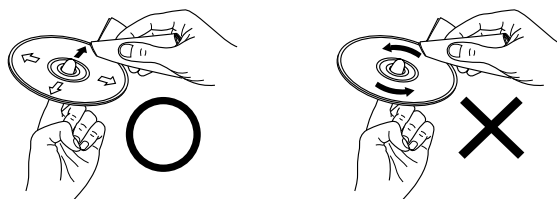
取り扱いについてのご注意

- 指紋・油・ゴミなどを付けないでください。
- ディスクに傷をつけないよう、特にケースからの出し入れにはご注意ください。
- 曲げたり、熱を加えたりしないでください。
- 中心の穴を大きくしないでください。
- レーベル面（印刷面）にボールペンや鉛筆などで文字を書いたり、ラベルなどを貼り付けたりしないでください。
- 屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと、ディスクに水滴がつくことがありますが、ヘアードライヤーなどで乾かさないでください。

保存についてのご注意

- ご使用後は、必ずディスクを取り出してください。
- ほこり・傷・変形などを避けるため、必ずケースに入れてください。
- 次のような場所に置かないでください。
  1. 直射日光が長時間当たるところ
  2. 湿気・ほこりなどが多いところ
  3. 暖房器具などの熱が当たるところ

ディスクのお手入れのしかた

- ディスクに指紋や汚れが付いたときは、汚れを拭き取ってからご使用ください。音質が低下したり、音が途切れたりすることがあります。
- 拭き取りには、市販のディスククリーニングセットまたは柔らかい布などをご使用ください。

内周から外周方向へ軽く拭く。

円周に沿っては拭かない。

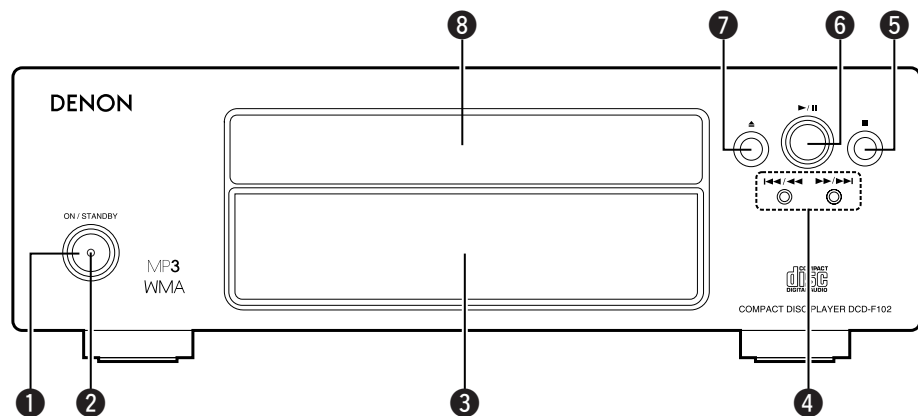
ご注意

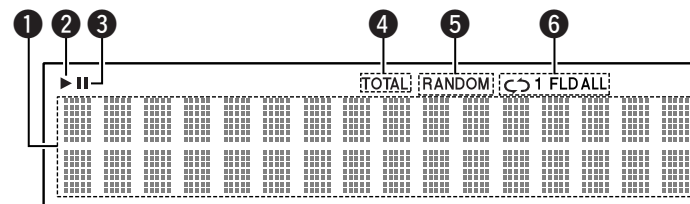
レコードスプレー・帯電防止剤や、ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品は、ご使用にならないでください。

≪ご使用になる前に≫

各部の名前とはたらき

各部のはたらきなど詳しい説明については、（　）内のページをご覧ください。

フロントパネル

❶ **電源スイッチ（ON/STANDBY）**…（11）
❷ **電源表示** ……（11）
❸ **ディスプレイ** ……（8）
❹ **スキップボタン**
（I◀◀, ▶▶I）……（12, 13, 15）
サーチボタン
（◀◀, ▶▶）……（12）
❺ **ストップボタン（■）**……（11）
❻ **プレイ/ポーズボタン**
（▶/II）……（11〜13, 15, 16, 18）
❼ **ディスクホルダー開閉ボタン**
（⏏）……（11）
❽ **ディスクホルダー** ……（11）

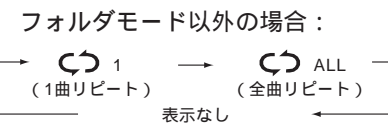
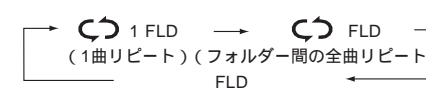
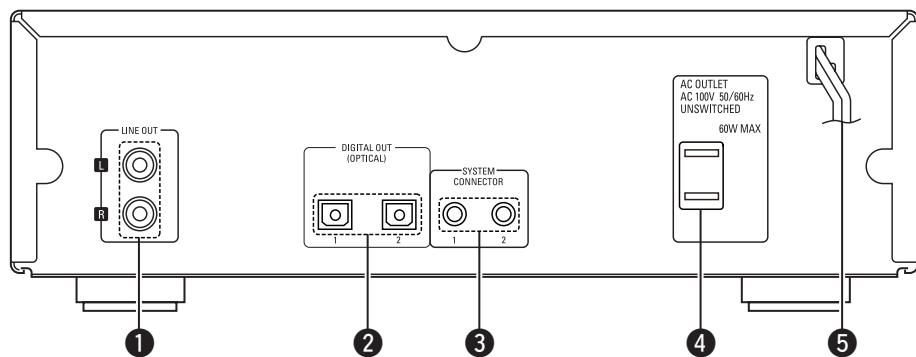
ディスプレイ

❶ インフォメーションディスプレイ
【音楽CDの場合】
- 総曲数
- 総時間
- 曲番
- 経過時間など

【MP3/WMAの場合】
- フォルダ数
- 曲数
- フォルダ番号
- 経過時間
- 曲名
- アーチスト名
- アルバム名

❷ 再生中に点灯します。
❸ 一時停止中に点灯します。
❹ ❶に総曲数や総時間を表示しているときに点灯します。
❺ ランダム再生のときに点灯します。
❻ リピート再生のときに点灯します。
REPEATボタンを押すたびに、次のように点灯します。
- フォルダモード以外の場合：

1（1曲リピート）→ ALL（全曲リピート）→ 表示なし

- フォルダモードの場合：

1 FLD（1曲リピート）→ FLD（フォルダー間の全曲リピート）→ FLD

リアパネル

❶ **アナログ出力端子**
（LINE OUT）……………………………（10）

❷ **デジタル出力端子**
（DIGITAL OUT OPTICAL）………（10）

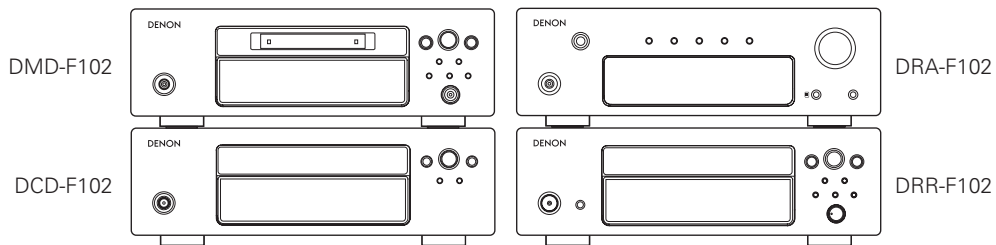
❸ **システム端子**
（SYSTEM CONNECTOR）………（10）

❹ **ACアウトレット**
（AC OUTLET）…………………………（10）

❺ **電源コード**…………………………………（10）

推奨するシステム配置のしかた

F102シリーズの機器を接続する際は、性能や安全性を確保するため、下記のように配置することをおすすめします。

ご注意

- 放熱のため、レシーバーの通風孔をふさがないように十分離して配置してください。
- レシーバーの上に他の機器を直接配置しないでください。
- 安全性確保のため、機器の積み重ねは3段までにしてください。

接続のしかた

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な差し込みは、雑音の原因になります。
- 電源を入れたまま接続すると、雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- 電源コードや接続ケーブルを一緒に束ねると、ハムや雑音の原因になることがあります。
- 各機器間のすべての接続ケーブルをしっかりと接続してください。不完全な接続をおこなうと、正しく動作しません。
- 接続の変更は、必ず電源コードを抜いてからおこなってください。動作中におこなうと、誤動作の原因になります。

接続ケーブルの表示

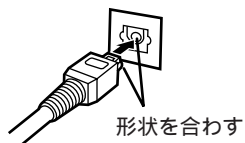
下記に示す接続ケーブルを使用して接続してください。

《接続のしかた》

接続のしかた【システム接続】

付属のシステムケーブル（右図の C ）でF102シリーズの各機器を接続することにより、システム操作をおこなうことができます（☞ 17ページ）。

- レシーバー（DRA-F102）がすべてのシステム操作をコントロールしています。
- F102シリーズ以外の機器を接続することもできます。この場合、システム操作はできません。

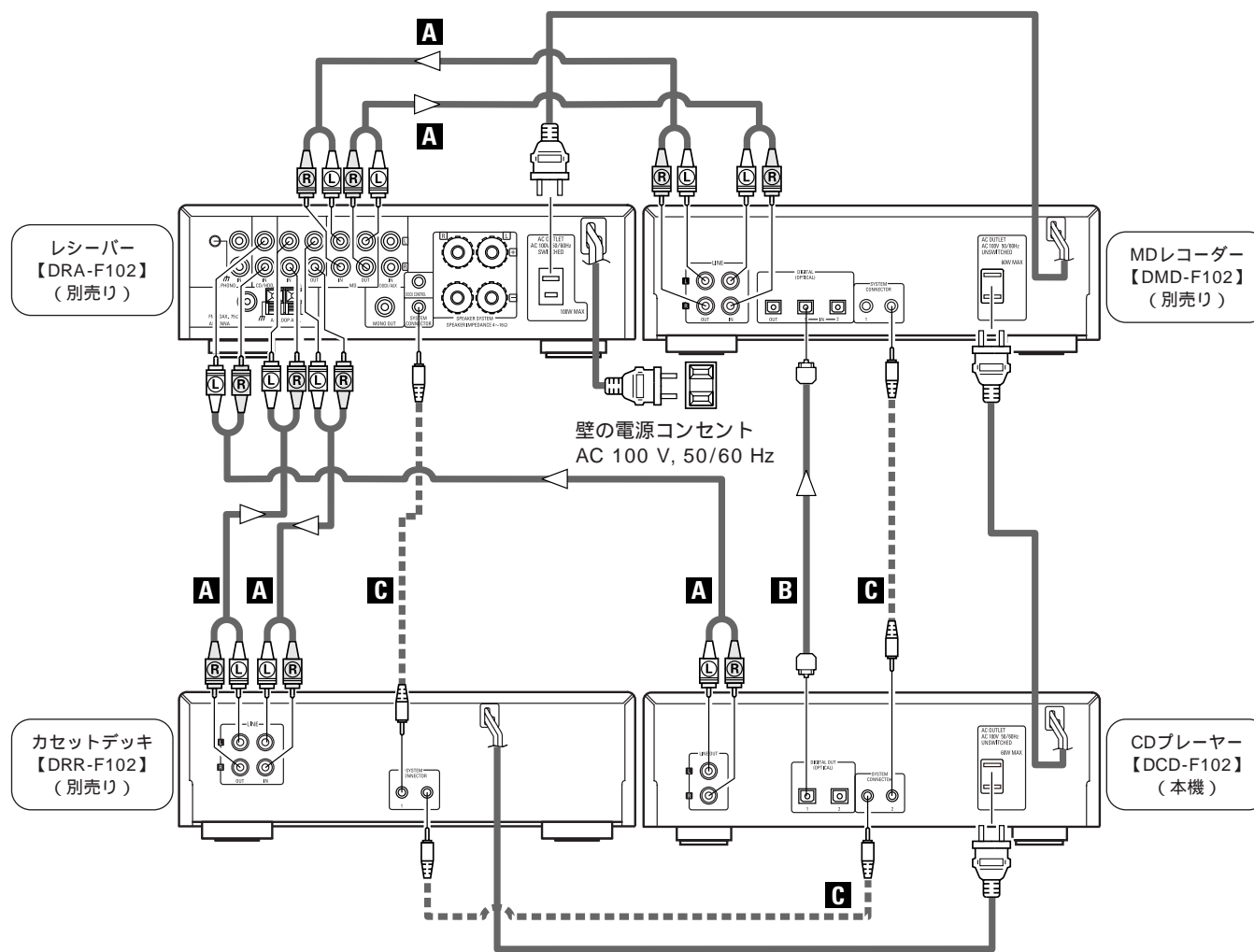
❑ デジタル出力端子（OPTICAL）を光伝送ケーブル（市販）で接続するとき

形状を合わせて奥までしっかりと差し込んでください。

レシーバー【DRA-F102】（別売り）

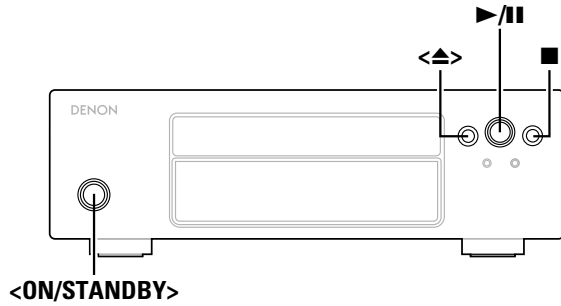
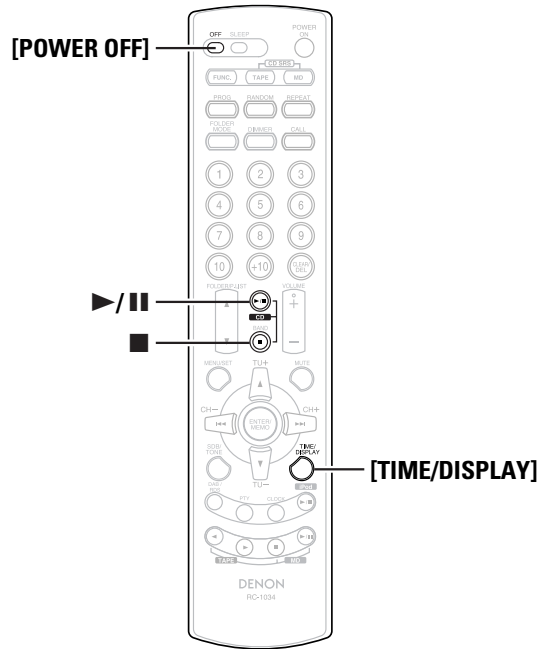
MDレコーダー【DMD-F102】（別売り）

壁の電源コンセント AC 100 V, 50/60 Hz

カセットデッキ【DRR-F102】（別売り）

CDプレーヤー【DCD-F102】（本機）

ご注意

- 動作しているときは、電源コードを抜かないでください。
- 本機のACアウトレットに接続できる機器の合計消費電力は、60Wまでです。それ以上の機器は接続しないでください。

操作のしかた

本機とレシーバー（DRA-F102）をシステム接続すると、レシーバーに付属のシステムリモコン（RC-1034）で本機を操作することができます。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

電源を入れる

＜ON/STANDBY＞ を押す。

● 電源が入ると、電源表示が緑色に点灯します。

❑ 電源を切る（スタンバイ状態にする）とき：

もう一度 ＜ON/STANDBY＞ を押す。または ［POWER OFF］を押す。
電源表示が消灯します。

ご注意

● 再生中に電源を切るときは、必ず ■ で再生を停止させてください。
● スタンバイ時にすべての表示が消灯していても、微量な電力を消費しています。

ディスクを入れる

（☞ 6ページ）

＜⏏＞ でディスクホルダーを開く。

❑ ディスクホルダーを閉じるとき：

もう一度 ＜⏏＞ を押す。

ご注意

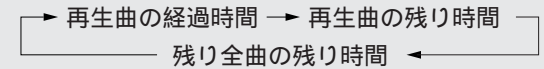
● ディスクホルダーを開閉するときは、必ず電源を入れてください。
● 電源が切られているときに、ディスクホルダーを手で押し込まないでください。故障の原因になります。
● ディスクホルダーに異物を入れないでください。故障の原因になります。

再生をはじめる

►/❚❚ を押す。

● “ ► ” 表示が点灯し、再生をはじめます。

※ ディスクに収録されているすべての曲の再生が終わると、自動的に停止します。
※ ［TIME/DISPLAY］ で表示内容を切り替えることができます。

→ 再生曲の経過時間 → 再生曲の残り時間 → 残り全曲の残り時間 →

再生を停止する

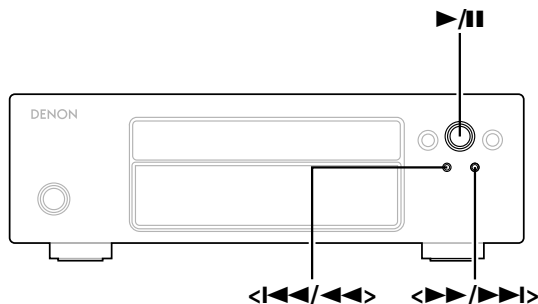
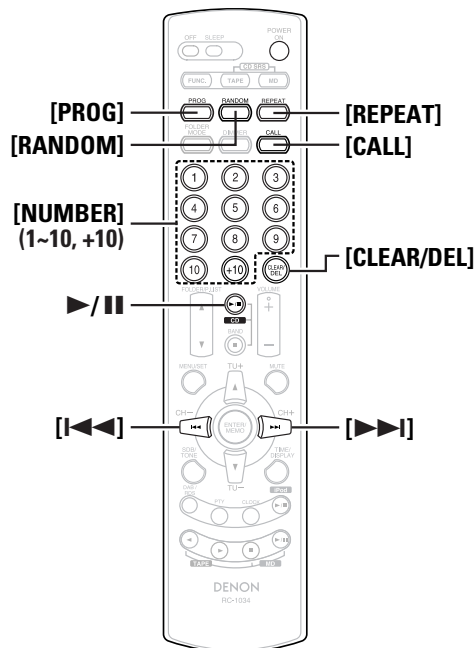
再生中に ■ を押す。

再生を一時停止する

再生中に ►/❚❚ を押す。

● “ ❚❚ ” 表示が点灯し、再生を一時停止します。

❑ 再び再生するとき：

►/❚❚ を押す。

本機とレシーバー（DRA-F102）をシステム接続すると、レシーバーに付属のシステムリモコン（RC-1034）で本機を操作することができます。

【操作説明のボタン名について】

＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

曲の早送りをおこなう（サーチ）

再生中に　＜▶▶/▶▶I＞　または［▶▶I］を押し続ける。

※ ボタンから指を離すと、そこから通常の再生をおこないます。

❏ より高速に曲の早送りをおこなうとき：

一時停止中に ＜▶▶/▶▶I＞ または［▶▶I］を押し続ける。

● 通常の再生に戻るときに、若干音が途切れることがあります。

曲の早戻しをおこなう（サーチ）

再生中に　＜I◀◀/◀◀＞　または［I◀◀］を押し続ける。

※ ボタンから指を離すと、そこから通常の再生をおこないます。

❏ より高速に曲の早戻しをおこなうとき：

一時停止中に ＜I◀◀/◀◀＞ または［I◀◀］を押し続ける。

● 通常の再生に戻るときに、若干音が途切れることがあります。

曲の頭出しをおこなう（スキップ）

再生中に［I◀◀］または［▶▶I］を押す。

※ ボタンを続けて押すと、次の動作をおこないます。
▶▶I：次々と後ろの曲の頭出し
I◀◀：次々と前の曲の頭出し

聞きたい曲を再生する（ダイレクト再生）

［NUMBER］（1〜10, +10）で曲を選ぶ。

※ 1〜10曲目のときは、［1］〜［10］までのボタンを押してください。
11曲目以上のときは、［+10］を押した後に［1］〜［10］までのボタンを押してください。

【例】4曲目：　［4］
【例】12曲目：　［+10］［2］
【例】20曲目：　［+10］［10］

聞きたい曲を好きな順番に聞く（プログラム再生）

最大25曲までプログラムすることができます。

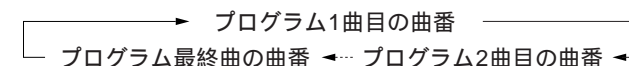
1 停止中に［PROG］を押す。
● “ PGM ” を表示します。

2 ［NUMBER］（1〜10, +10）で曲を選ぶ。
【例】3曲目、12曲目、7曲目とプログラムする場合：
［3］［+10］［2］［7］

3 ▶/II を押す。
● プログラムされた順に再生します。

❏ プログラムした曲を確認するとき：

停止中に［CALL］を押す。

→ プログラム1曲目の曲番 → プログラム2曲目の曲番 → プログラム最終曲の曲番 →

※ ［CALL］を5秒以上操作しないと、プログラム総時間表示に戻ります。

❑ プログラムした曲を変更するとき：
停止中に［PROG］を押してプログラム曲番表示を消した後、もう一度操作 **1**、**2** をおこなう。

❑ プログラムした曲を取り消すとき：
停止中に［CLEAR/DEL］を押す。
ボタンを押すたびに、プログラムされた最終曲から順に取り消します。

❑ プログラム再生を止めるとき：
停止中に［PROG］でプログラム曲番表示を消す。

- プログラム再生中に［REPEAT］を押すと、プログラムされた曲をリピート再生します。

ご注意
プログラム選曲をした後にディスクホルダーを開くと、プログラムの内容は消去されます。

順不同に聞く（ランダム再生）

1 停止中に［RANDOM］を押す。
- " RANDOM " 表示が点灯します。

2 ►/II を押す。

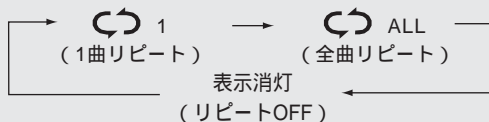
❑ ランダム再生を止めるとき：
［RANDOM］を押す。
" RANDOM " 表示が消灯します。

- ランダム再生中に［REPEAT］を押すと、一通りのランダム再生後、違った曲順でランダム再生されます。毎回違った曲順でランダム再生が楽しめます。

曲をくり返して聞く（リピート再生）

1曲のみをくり返して聞く（1曲リピート再生）

1 停止中または再生中に［REPEAT］を1回押す。
- " ⟲ 1 " 表示が点灯します。

2 <I◄◄/◄◄> または <►►/►►I>、［I◄◄］または［►►I］で聞きたい曲番を選ぶ。

3 ►/II を押す。
- 選ばれた曲をくり返し再生します。

❑ 1曲リピート再生を止めるとき：
" ⟲ 1 " 表示が消灯するまで［REPEAT］を押す。

全曲をくり返して聞く（全曲リピート再生）

1 停止中または再生中に［REPEAT］を続けて2回押す。
- " ⟲ ALL " 表示が点灯します。

2 ►/II を押す。
- 再生中のディスクをくり返し再生します。

❑ 全曲リピート再生を止めるとき：
" ⟲ ALL " 表示が消灯するまで［REPEAT］を押す。

頭出しをして再生を止める（ポーズ）

曲を選んだ後に頭出しをした状態で一時停止しておくと、MDやカセットテープへ録音するときに便利です。

ダイレクト選曲による頭出し

1 再生中に ►/II を1回押す。
- " II " 表示が点灯します。

※ 停止中の場合は、►/II を続けて2回押してください。

2 ［NUMBER］（1〜10, +10）で曲を選ぶ。

❑ 再生をはじめるとき：
►/II を押す。

- プログラム再生中のときは<I◄◄/◄◄>または<►►/►►I>、［I◄◄］または［►►I］で曲を選んでください。

プログラム選曲による頭出し

1 停止中に［PROG］を押す。
- " PGM " を表示します。

2 ［NUMBER］（1〜10, +10）で曲を選ぶ。

3 ►/II を続けて2回押す。
- プログラムされた最初の曲の頭出しをおこない、一時停止します。

❑ 再生をはじめるとき：
►/II を押す。

《操作のしかた》

MP3やWMAファイルを再生する

MP3やWMAファイルを再生する前に

インターネットのホームページ上には、MP3形式やWMA（Windows Media Audio）形式の音楽ファイルをダウンロードできる様々な音楽配信サイトがあります。そのサイトからダウンロードした音楽（ファイル）をCD-R/CD-RWに書き込むことにより、本機で再生することができます。

Windows Media および Windows のロゴは、米国やその他の国で、米国 Microsoft Corporation の登録商標または商標になっています。

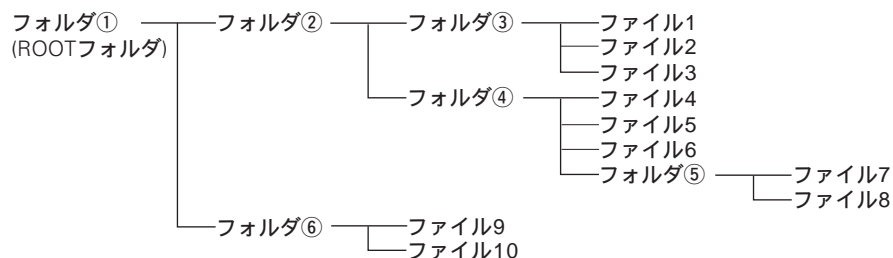
※ **あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。**

❑ フォルダの再生順序について

MP3やWMAファイルが記録されたフォルダが複数ある場合は、本機がディスクを読み取るときに、自動的に各フォルダにフォルダ番号を設定します。
フォルダの切り替えは、この設定されたフォルダ番号でおこないます。フォルダに再生可能なファイルがない場合は、そのフォルダを無視します。

❑ ファイルの再生順序について

ファイルの再生順序は、ディスク作成時のフォルダの構成順位や、記録時にディスクに記録される情報により決められます。
次のフォルダ構成例では、ファイル1、2、3…の順に再生されます。

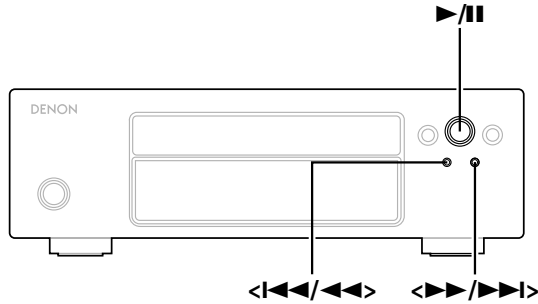
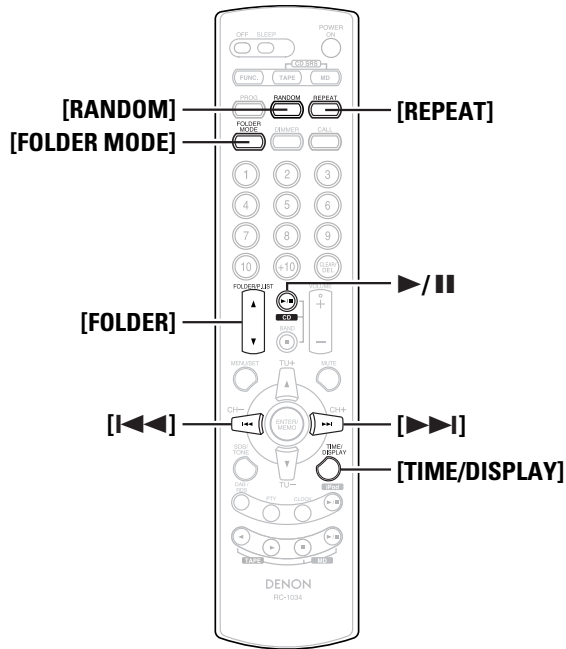
※ ディスクに記録される情報は、ライティングソフトにより異なります。そのため、ご希望の順番で再生されない場合があります。

❑ 再生するフォルダやファイルの設定について（フォルダモード/ファイルモード）

[FOLDER MODE] で切り替えます。

- **フォルダモード**
  “ FLD ” 表示が点灯します。
  選ばれたフォルダだけを再生します。

  【例】 フォルダ④を選んだ場合
  ファイル4、5、6が再生されます。
  フォルダ⑤は、別フォルダとして扱われるため、ファイル7、8は再生されません。

- **ディスクモード**（フォルダモード：OFF）
  “ FLD ” 表示が消灯します。
  選ばれたフォルダやファイル以降のすべてのフォルダ内のファイルを再生します。

  【例】 フォルダ③のファイル3を選んだ場合
  ファイル3以降のすべてのファイルが再生されます。

本機とレシーバー（DRA-F102）をシステム接続すると、レシーバーに付属のシステムリモコン（RC-1034）で本機を操作することができます。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

MP3やWMAファイルを再生する

1 **MP3/WMA形式の音楽ファイルを書き込んだCD-R/CD-RWをディスクホルダーに入れる（☞ 6、11ページ）。**

2-1 **フォルダモードのとき：**
［FOLDER MODE］で“ FLD ”表示を点灯させ、［FOLDER］で再生するフォルダを選ぶ。
● 選ばれたフォルダを表示します。

2-2 **ディスクモードのとき：**
［FOLDER MODE］で“ FLD ”表示を消灯させ、＜I◄◄/◄◄＞ または ＜►►/►►I＞、［I◄◄］または［►►I］で再生するファイルを選ぶ。
● 選ばれたファイルを表示します。

3 **►/II を押す。**
● ファイル名、タイトル/アーチスト名、タイトル/アルバム名をスクロール表示し、再生をはじめます。

※ タイトル名、アーチスト名、アルバム名は、それぞれがディスクに記録されているときのみ表示します。
※ ［TIME/DISPLAY］で表示内容を切り替えることができます。

❑ 再生するフォルダを変えるとき：
［FOLDER］でもう一度フォルダを選ぶ。

❑ 再生するファイルを変えるとき：
停止中に ＜I◄◄/◄◄＞ または ＜►►/►►I＞、［I◄◄］または［►►I］でもう一度ファイルを選ぶ。

● 再生中または一時停止中にフォルダを選んだ場合は、選んだフォルダの１曲目で再生または一時停止されます。
●「著作権保護されているWMAファイル」または「正しく再生できないファイル」を選んでいるときには、“ Not Support ”が表示されます。＜I◄◄/◄◄＞ または ＜►►/►►I＞、［I◄◄］または［►►I］で別のファイルを選んでください。

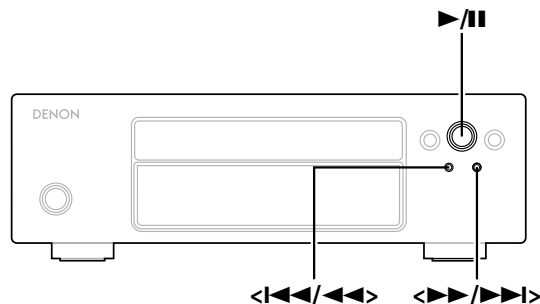
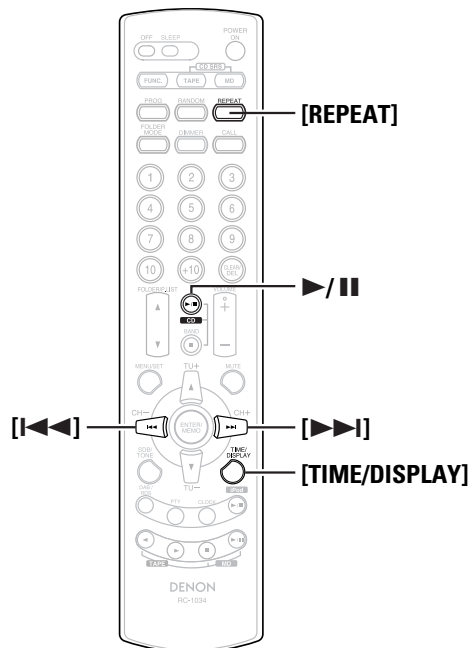
MP3やWMAファイルを順不同に聞く（フォルダ/ディスクランダム再生）

1 **「MP3やWMAファイルを再生する」の操作 2-1 または 2-2 をおこなう。**

2 **［RANDOM］を押す。**
●“ RANDOM ” 表示が点灯します。

3 **►/II を押す。**
● 選ばれたフォルダまたはディスクの中でランダム再生します。

❑ フォルダ/ディスクランダム再生を止めるとき：
［RANDOM］を押す。
“ RANDOM ” 表示が消灯します。

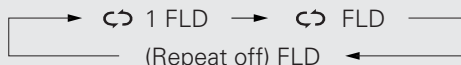
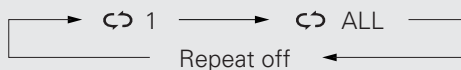
● ランダム再生中に［REPEAT］を押すと、一通りのランダム再生後、違った曲順でランダム再生されます。毎回違った曲順でランダム再生が楽しめます。

本機とレシーバー（DRA-F102）をシステム接続すると、レシーバーに付属のシステムリモコン（RC-1034）で本機を操作することができます。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

MP3やWMAファイルをくり返して聞く
（フォルダ/ディスクリピート再生）

1 **「MP3やWMAファイルを再生する」（☞ 15ページ）の操作 *2-1* または *2-2* をおこなう。**

2 **［REPEAT］でリピートモードを選ぶ。**

※ フォルダモードのとき

⟲ 1 FLD → ⟲ FLD → (Repeat off) FLD

※ ディスクモードのとき

3 **►/II を押す。**
- 選ばれたフォルダまたはディスクをくり返し再生します。

❏ フォルダ/ディスクリピート再生を止めるとき：
“ ⟲ ” 表示が消灯するまで［**REPEAT**］を押す。

ご注意

- 本機で対応している規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」（サンプリング周波数は、44.1kHzおよび48kHz）です。それ以外の「MPEG-2 Audio Layer-3」、「MPEG-2.5 Audio Layer-3」およびMP1、MP2などには対応していません。
- MP3やWMA形式で記録されたディスクでは、プログラム再生ができません。
- サンプリング周波数は、サンプリングコンバータにより44.1kHzとして出力されます。
- MP3ファイルをCD-R/CD-RWに書き込む場合は、ライティングソフトのフォーマットを “ ISO9660レベル1 ” にしてください。他のフォーマットで記録された場合は、正しく再生できないことがあります。また、ライティングソフトによっては、ISO9660フォーマットで記録できないものがあります。このような場合は、ISO9660フォーマットのライティングソフトをご使用ください。
- MP3ファイルはビットレートが高いほど音質が良くなります。MP3の対応ビットレートは32〜320kbps、WMAは64〜160kbpsです。本機では128kbps以上のビットレートで記録されたMP3ファイルのご使用をおすすめします。
- MP3やWMAファイルには必ず拡張子 “ .MP3 ”“ .WMA ” を付けてください。“ .MP3 ”“ .WMA ” 以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかったファイルは再生できません。（マッキントッシュのパソコンの場合、半角英数大文字8文字以内のファイルネームの最後に拡張子 “ .MP3 ” を付けてCD-R/CD-RWに記録することにより、MP3ファイルが再生できます。）

ご注意

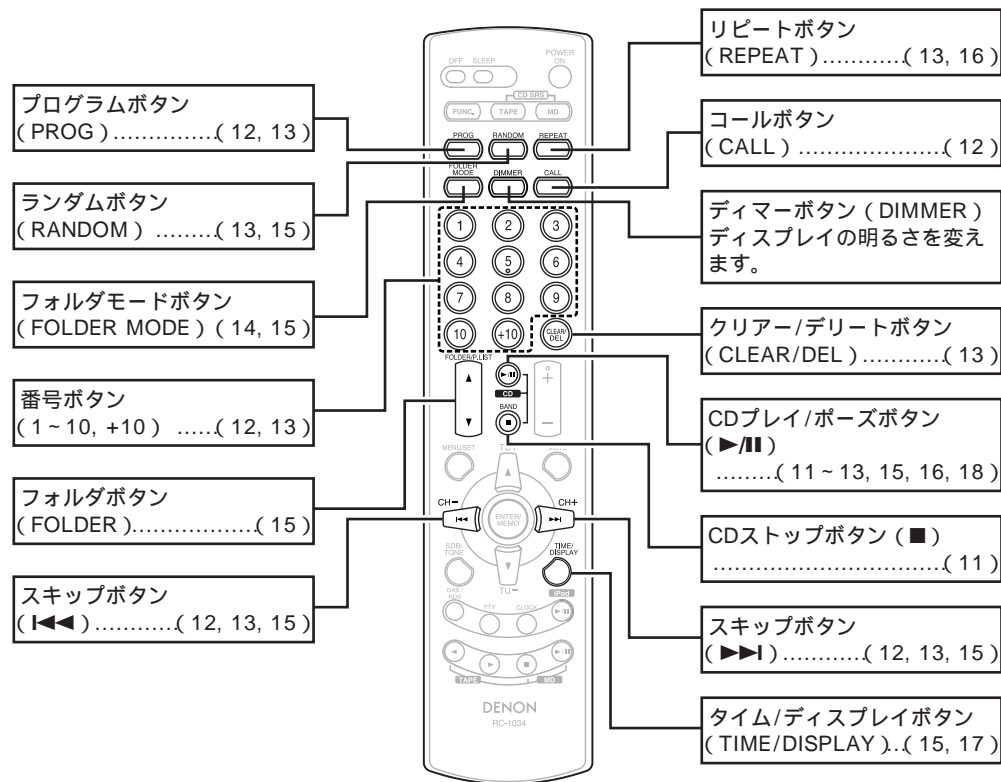
- パケットライトソフトやプレイリストには対応していません。
- フォルダ名やファイル名は、32文字まで表示できます。
- 本機は、MP3 ID3-Tagのバージョン1.xおよび2.xに対応しています。（半角英数字のみ表示可能です。）
- 可変ビットレート再生中にサーチおよびポーズ操作をおこなうと、正しく時間表示されない場合があります。
- ［**TIME/DISPLAY**］で時間表示の切り替えはできません。
- タイトル名やアーチスト名が記録されているファイルでは、再生中または一時停止中に［**TIME/DISPLAY**］でタイトル名やアーチスト名を表示することができます。
- 書き込みを終了していないマルチセッションディスクやCD-R/CD-RWも再生できますが、10セッション以内で閉じたディスクや書き込みを終了したディスクの再生をおすすめします。
- WMAファイルのメタタグは、タイトル、アーチスト、アルバムに対応しています。
- 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数は、512個（フォルダ数とファイル数の合計）です。また、最大フォルダ数は256個です。
- 著作権保護されたWMAファイルは再生できません。
（“ Not　Support ” が表示されます。**<I◀◀/◀◀>**または**<▶▶/▶▶I>**、［**I◀◀**］または［**▶▶I**］により別のファイルを選択してください。）

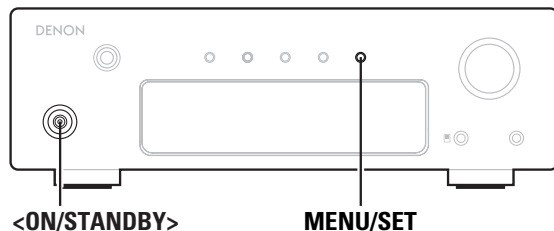
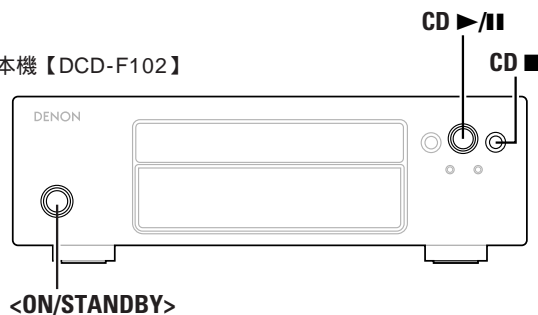
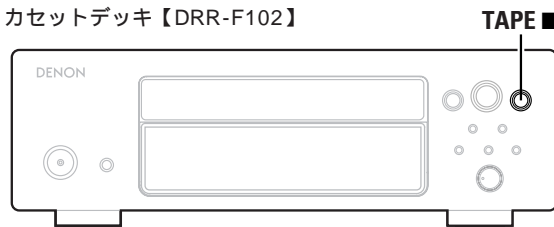
システム操作のしかた

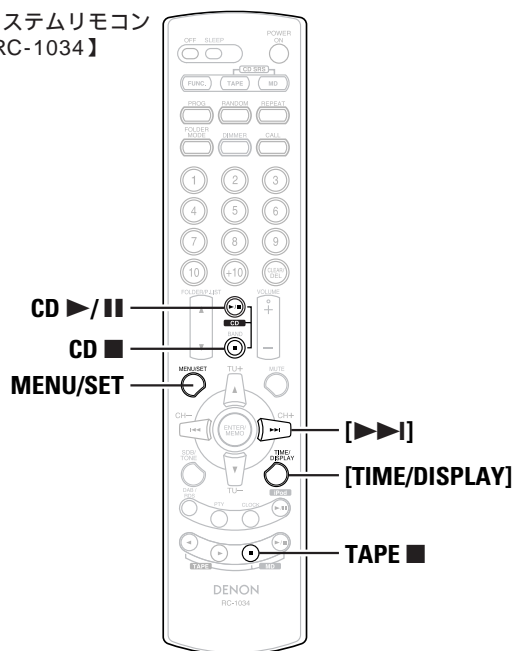
本機をF102シリーズの他の機器とご使用になることにより、CDシンクロ録音などのシステム動作や、システムリモコン（レシーバー（DRA-F102）に付属）による各機器の操作などをおこなうことができます。
システムケーブルでシステム接続をおこなってください（☞ 10ページ）。

- レシーバー（DRA-F102）がすべてのシステム操作をコントロールしています。
- 各機器に付属の取扱説明書も必ずお読みください。

システムリモコンについて

- レシーバー（DRA-F102）に付属のシステムリモコン（RC-1034）で本機を操作することができます。
- リモコンは、レシーバーのリモコン受光部に向けて操作してください。
- 下記に示すボタンは、本機を操作する際に使用します。
各部のはたらきなど詳しい説明については、（　）内のページまたはレシーバー（DRA-F102）の取扱説明書をご覧ください。

※ **上記以外のボタンは、操作できません。**

レシーバー【DRA-F102】

本機【DCD-F102】

カセットデッキ【DRR-F102】

本機とレシーバー（DRA-F102）をシステム接続すると、レシーバーに付属のシステムリモコン（RC-1034）で本機を操作することができます。

システムリモコン【RC-1034】

【操作説明のボタン名について】

< >：	本体のボタン
[ ]：	リモコンのボタン
ボタン名のみ：	本体とリモコンのボタン

- レシーバー（DRA-F102）がすべてのシステム操作をコントロールしています。
- F102シリーズ以外の機器を接続することもできます。
この場合、システム操作はできません。

オートパワーオン機能

各機器の電源がスタンバイ状態のときに、[CD ►/II]を押す。

- 各機器の電源が入り、レシーバーのファンクションが自動的に“ CD ”に切り替わります。
- 本機にディスクが入っているときは、ディスクの再生をはじめます。

※ **<CD ►/II>** を押してもオートパワーオン機能は動作しません。

オートファンクション機能

本機以外の機器を再生中に、CD ►/II を押す。

- 再生が停止します。
- レシーバーのファンクションが自動的に“ CD ”に切り替わり、ディスクの再生をはじめます。

CDシンクロ録音機能

CDを簡単にMDやカセットテープに録音することができます。操作のしかたは、MDレコーダーまたはカセットデッキに付属の取扱説明書をご覧ください。

タイマー再生機能

レシーバーのタイマー機能を使用して、設定された時間に再生をおこなうことができます。
操作のしかたは、レシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。

エディット機能

- カセットテープの長さ（テープ時間）に合わせて、自動編集することができます。
- あらかじめ、CDとカセットテープを入れておいてください。

1 **各機器の ＜ON/STANDBY＞ で電源を入れる。**

2 **MENU/SET を3回押す。**
- レシーバーのディスプレイに " EDIT " を表示します。

3 **［▶▶I］でカセットテープの長さを設定する。**

【例】60分のカセットテープをご使用になる場合は［▶▶I］で " C-60 " を選ぶ。

→ C－46 → C－60 → C－90 → C－ → エディット解除

（カセットテープの長さは、A面とB面を合わせた時間です。）

- カセットテープの長さを設定すると、" A面に録音する曲番と残り時間 " と " B面に録音する曲番と残り時間 " を交互に表示します。

A 01-09T -02:40

曲番　残り時間

4 **CD ▶/II を押す。**
- CDの録音をはじめます。

❑ カセットテープの長さを任意に設定するとき：

" C－ "が表示されているときに、**[NUMBER]（1〜10, +10）**で時間を入力する。

【例】54分に設定する場合
[+10]［+10］［+10］［+10］［+10］［4］

※ 99分まで設定することができます。

❑ エディット機能を止めるとき：

CD ■ または **＜TAPE ■＞** を押す。

ご注意

- エディット機能は、26曲以上収録されているディスクでは動作しません。
- エディット録音をおこなう際は、必ずカセットテープのA面を上に向けて入れてください。自動的にカセットテープの頭出しをしてから録音をはじめます。
- すでに録音されているカセットテープをご使用になる場合は、エディット録音をおこなう前に消去してください。
- エディット録音をおこなう際は、カセットデッキのリバースモードを " ⊃ " にしてください。
- 使用するカセットテープがディスクの収録時間より若干長くても、A面とB面の振り分け時間の関係ですべての曲が録音できない場合があります。録音ができない曲がある場合は、本機のディスプレイに " OVER " を表示します。
  " OVER " が表示された場合は、操作 **3** によりカセットテープの長さを変更してください。
- エディット機能動作中は、**＜ON/STANDBY＞**、**MENU/SET**、**[▶▶I]**、**CD ▶/II**、**CD ■**、**＜TAPE ■＞**、**[TIME/DISPLAY]** 以外のボタンは操作できません。
- エディット録音では、自動的に曲間を約4秒に設定します。したがって、曲間がないCDを録音すると、曲間が空いて不自然に感じられることがあります。このような場合は、エディット録音をおこなわないでください。
- MP3やWMA形式で記録されたディスクでは、エディット録音はできません。

《システム操作のしかた》

その他について

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もしお買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音が出ない。	●電源プラグがコンセントから外れている。	●電源プラグをコンセントに差し込んでください。	10
CDを入れてもディスプレイが“00 m 00 s”表示になる。	●CDが正しく入っていない。	●CDを入れ直してください。	6
▶/❚❚ボタンを押しても再生しない。	●CDが汚れたり、傷が付いたりしている。	●CDの汚れを拭き取るか、他のCDと入れ替えてください。	7
音が出ない。または歪む。	●各機器との接続が不完全。 ●レシーバーの各種調節やファンクションが不適切。	●接続を確認してください。 ●レシーバーのつまみ類やファンクションを確認し、調節してください。	10 —
ディスクの指定場所が正しく再生できない。	●CDが汚れたり、傷が付いたりしている。	●CDの汚れを拭き取るか、他のCDと入れ替えてください。	7
プログラム再生ができない。	●プログラム方法が違っている。 ●MP3/WMAディスクを再生している。	●正しくプログラムしてください。 ●MP3/WMAディスクでは、プログラム再生ができません。	12 —
CD-R/CD-RWが再生できない。	●ファイナライズされていない。 ●記録状態が悪い。またはディスク自体の品質が悪い。	●ファイナライズをしてから再生してください。 ●正しく記録されたディスクをご使用ください。	6 —
MP3やWMA形式で記録されたファイルを再生するときに“Not Support”が表示される。	●「著作権保護されたWMAファイル」または「正しく再生できないファイル」を選んでいる。	●本体の⏮/◀◀または▶▶/⏭、リモコンの⏮または⏭ボタンで別のファイルを選んでください。	15、17
システム動作をしない。	●システムケーブルの接続が不完全。	●しっかり接続してください。	10
リモコンを操作しても正しく動作しない。	●システムケーブルの接続が不完全。	●しっかり接続してください。	10

保証とサービスについて

1. この商品には保証書を添付しております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2. 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書を添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

3. 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4. 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5. お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6. この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7. 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

主な仕様

❑ オーディオ

チャンネル数：	2チャンネル
周波数特性：	2 Hz ～ 20 kHz
ダイナミックレンジ：	100 dB
SN比：	105 dB
高調波ひずみ率：	0.005 %（1 kHz）
セパレーション：	95 dB
ワウ・フラッター：	測定限界（±0.001 %　W.peak）以下
アナログ音声出力：	出力レベル：2.0 Vrms（LINE OUT）

❑ 使用ディスク:　コンパクトディスク

直径：	120 mm/80 mm

❑ 信号フォーマット

標本化周波数：	44.1 kHz
量子化数：	16 bit　リニア/チャンネル
伝送ビットレート：	4.3218 Mb/秒

❑ デジタル出力信号フォーマット

フォーマット：	DIGITAL AUDIO INTERFACE
OPTICAL光出力：	−15 ～ −21 dBm
発光波長：	660 nm

❑ ピックアップ

方式：	対物レンズ駆動方式光ピックアップ
対物レンズ駆動方式：	2次元並行駆動
光源：	半導体レーザー
波長：	780 nm

❑ 総合

電源：	AC 100 V　50/60 Hz
消費電力：	12 W（電気用品安全法による） スタンバイ時：0.1 W以下
外形寸法：	250（幅）×73（高さ）×250（奥行き）mm （突起物含まず） 250（幅）×82（高さ）×260（奥行き）mm （突起物含む）
質量：	2.9 kg

《その他について》

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。		
購　入　店　名：		電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：	年　　月　　日	

Printed in China　00D 511 4462 102